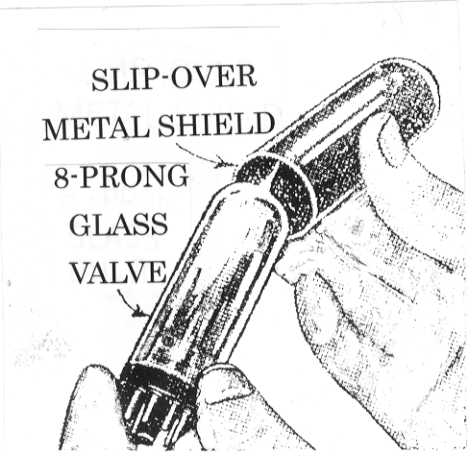
19.　MG (Metal-Glass) 管について

眞空管の歴史の中で、1936 年頃から ほんの一時だけ当時の中小メーカーに依って製造された MG(Metal-Glass) 管というジャンルがあります。LM(Loctal-Metal)管などと共に過渡的な存在で、わが国に入った量が少なかったこともあって余り馴染みがありません。

1935 年 RCA がメタル管を発売しましたが、中小メーカーにとっては金型や製造設備に要する負担が大き過ぎて直ちにメタル管の市場に参入するわけには行きませんでした。RCA にしてみれば政策が成功したと云えます。そこで中小のメーカーは今でいう GT 管のようなチュウブラー型のガラス管の上にアルミのスリーブを被せ、その多くはメタル管のように黒く塗って対応するメタル管の名称に MG のサフィックスを付けた一連の MG 管を誕生させました。メタル管の大御所である RCA や GE(当時 RCA への供給元)製の MG 管はありません。



Radio Craft 誌 Oct.1936

米国で MG 管を製造したメーカーは：Arcturus, Ce-Co, Champion, Gold Seal, Hytron, KEN-RAD, National Union, Raytheon, Republic, Triad などの 10 社程度, それに若干の OEM ブランド Crossley (made by KEN-RAD)などがあります。フランスの Neotron が米国系でしかも米国では製造されなかった品種（6M7MG, 6E8MG etc.)も製造して米国に供給していたのは興味あるところです。一方欧州でも Telefunken が 1938 年に独自のメタル管を出しましたところ、半年後ハンガリーの Tungsram がそれらの MG 管を作りました。

MG 管の品種は、その誕生の経緯から当然のことながら初期のメタル管の MG バージョンが大半を占めています。即ち、5Z4MG, 6A8MG, 6C5MG, 6F5MG, 6F6MG, 6H6MG, 6J7MG, 6L7MG のいわゆるオリジナル 9 と 6K8MG, 6Q7MG, 6R7MG, 25Z6MG などです。更に、6X5MG, 6V6MG も製造されたようです。

ところが、やがて MG 管は単なるメタル管の代換品の域を脱してメタル管としては出なかったもの 即ちガラス管にしかなかった品種までその領域を広げてゆきました。 6E8MG, 6F7MG, 6M7MG, 6N6MG, 6Z6MG, 25Z5MG, 43MG 等々がそれです。更に当時の意欲的な中小メーカーの手に依って MG 管独自のも現れました。Triad の 50A2MG, 50A2MG など、今となっては規格を調べることさえ容易ではありません。

このMG管について、Arcturasが殊の外 積極的に取り組みました。1936年 CORONET という商品名を付けて 6A8MG~ のいわゆるオリジナル9をはじめ、24, 27, 51等、既存の 2.5V管もMG化しオクタル→ UYのアダプターを付属させて、独自の“CORONET路線”を敷こうとしましたが GT管の出現で敢えなく短命に終わりました。

------ 米国製MG管の例 ------

------ フランス製MG管の例 ------